

指定管理者評価シート

事業名	地域コミュニティ施設運営管理費	所管課(電話番号)	清田区市民部地域振興課(889-2400)
-----	-----------------	-----------	-----------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	里塚・美しが丘地区センター	所在地	札幌市清田区里塚2条5丁目1-1
開設時期	平成20年4月1日	延床面積	1,302.91㎡
目的	地域住民のコミュニティ活動の助長及び生涯学習の普及振興を図り、もって地域住民の福祉の増進に寄与する。		
事業概要	(1) 各種講習会、講演会等の開催、体育、各種野外活動等のレクリエーション活動の推進、その他必要な事業を行うこと。 (2) 一般の使用に供すること。		
主要施設	1階：多目的室、子育てサロン、まちづくりサロン 2階：視聴覚室、集会室1・2、実習室1・2、ラウンジ		
2 指定管理者			
名称	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団		
指定期間	令和5年(2023年)4月1日～令和10年(2028年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由：当センターが、地域社会に関係の深い団体によって継続的に管理運営されることにより、地域住民がまちづくり活動に直接参加する機会が作られ、地域住民自らがセンターの管理運営を通して把握された地域課題の解決に取り組むことによって、地域住民間の信頼関係が築かれ、地域社会における絆の強化につながる事となる。また、まちづくり活動の担い手の育成に寄与することも期待される。このようなことから、設置目的の実現のために、地縁による団体により設立された団体及び当該設立された団体を主な構成員とする団体並びに当センター等の管理運営に関わりを持つものと市長が認める地縁による団体の推薦を受けた団体により、現に良好な管理運営が行われている場合には、継続的に管理運営を行わせるために非公募としたもの。		
指定単位	施設数：1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	(1) 統括管理業務 (2) 施設・設備等の維持管理に関する業務 (3) 事業の計画及び実施に関する業務 (4) 施設の利用等に関する業務 (5) 前各号に掲げる業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 令和5年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>開館当初より、地区センターのテーマを『つながる』と掲げ、地域住民が主体者となり活動できるようにコーディネートし、地域の居場所として、人と人とのつながりの豊かさを大切に、『いつでも気軽に誰もが立ち寄れる地区センター』を目指し、全員が『大きな声で挨拶をする』『声かけをする』を心掛けて運営した。</p> <p>また、以下4つの基本方針を掲げ、運営している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.思いやりの心を大切に、あたたかさや人のつながりを豊かにする。 2.地域の課題や区民のニーズに即した事業を企画し、まちづくりを進める。 3.ボランティアや地域の担い手を養成し、区民の主体的な地域活動を支援する。 4.個人とグループ、そして地域をつなぐネットワークを構築する。 <p>今年度は、この4つの基本方針を軸に、更に人と人がつながりやすい「食」と「音楽」を積極的に取り入れて運営にあたった。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼貸室利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「使用承認取り扱い要領」の遵守による運用の徹底 ・利用者に対する丁寧な説明。特に抽選になった預かり確定時の、公平な処理、説明、連絡など。 <p>▼企画講座・交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が情報を得る際に不公平が生じないように、紙媒体としての札幌市の広報誌や回覧板・館内告知ポスター・チラシの他に、ホームページやFacebook・Twitter・LINE等でも広く告知した。また、告知の期間にも十分に幅を持たせるよう配慮した。 ・事業への参加申し込みは基本的には先着順で受付を行った。 <p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>▼ロードヒーティングは日中はこまめに手動で操作し、夜間は天気予報を確認して設定を決め、CO2の削減に配慮した。</p> <p>▼館内で使用する事務用品等は、グリーン商品の購入を心掛けた。</p> <p>▼各種行事で使用する物は、なるべく紙製のものを使用し、SDGsのプラスチック削減に努めた。</p>	<p>今年度も、地区センターのテーマとして掲げている「つながる」を大切に、地域の方の豊かな生活やつながりのために、様々な地域の団体と連携して取り組みを実践した。</p> <p>様々な媒体の活用により、多世代が情報を得られるように配慮した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">各要求水準、基本方針に基づき、適正に運営されている。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	各要求水準、基本方針に基づき、適正に運営されている。			
A	B	C	D								
各要求水準、基本方針に基づき、適正に運営されている。											

▼効率的な印刷や、印刷物の再利用を心掛け、コピー用紙の削減を図った。また、コピー枚数の多いものは輪転機を活用した。

▼ペットボトルのキャップやリングプル・古切手等の回収やインクカートリッジの回収を実施、社会福祉協議会の回収事業に協力した。また、ごみ分別の徹底も行い、廃棄物の排出抑制を図った。

▼札幌市環境マネジメントシステムに則り、各種帳票を提出した。

▼未使用室の照明や冷暖房等の管理を徹底し、空調の効率的運転によりCO2排出量の削減を図った。

▼電気使用量

・今年度の一般電気使用量は、79,242Kwhで、令和4年度より1,916Kwh増え、前年比102%だった。

・ロードヒーティングや床暖の電気代については、令和4年度は、降雪量が少なかったためロードヒーティングをあまり使わなかったのと、子育てスペースの床暖房を稼働しなかったことで、使用料が抑えられたが、今年度は、例年並みの降雪量と、床暖の使用もあり、前年比133%だった。

▼ガス使用量

・今年度の一般ガスの使用量は447㎡で、前年比187%となった。調理サークルが利用を再開したことや、カフェや食堂での利用が増えたことが要因と思われるため、必要経費と考える。

・一方、空調設備のガス使用量は、前年実績11,472㎡に対し、11,197㎡で前年比97%だった。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【組織・人員配置】

職種	配置部署	職務	雇用形態	数
館長	事務室	統括	常勤	1
副館長	事務室	事務・経理 館長補佐	常勤	1
事務 (120H以上)	事務室	事務・図書	非常勤	3
事務 (120H以下)	事務室	事務・図書	非常勤	5
清掃	全館	清掃	非常勤	3

今年度の電気使用料は、貸室利用がほぼ平常になったことから、節電に努めたが昨年度に比べて増加した。

協定書に準じて人員を配置した。

3.6協定を締結し、労働基準監督署に提出した。

▼5月より、日勤職員(120H以下)が1名入り、14名体制になった。その後夜勤職員(120H以下)1名が7月で退職し、新たに1名を採用した。また、1月で日勤職員(120H以下)が退職し、13名体制になった。

▼人員の入替え時には、十分な引継ぎができるようシフトを厚くし、業務分担もその都度見直し、連絡系統等を定めた。

▼人材育成では、本部主催の研修は、オンライン・集合研修があり、該当職員が受講した。
また外部の普通救命講習にも参加した。

▼事務・経理・図書・新人研修は、適宜個別に行った。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼利用者への対応の統一(公平性)を図るために、毎月職員全員で定例会議を実施し、細かな情報も共有した。また、市やその他各方面からの情報なども、会議や朝礼、夜勤への引継ぎ時に確認し、議事録や日報などにも記載して共有した。

▼通常業務で使用している様式を、職員全員がより正確に把握し遂行できるよう改善・見直しを図った。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

- ①警備業務
- ②自家用電気工作物保安管理業務
- ③エレベータ保安全管理業務
- ④自動ドア保安全管理業務
- ⑤ガスヒートポンプ保全業務
- ⑥消防設備保全業務
- ⑦除排雪業務
- ⑧定期清掃業務(定期清掃・高所窓・床ワックス)
- ⑨排煙オペレーター装置保守業務
- ⑩建築基準法定期点検業務
- ⑪札幌市地区センター予約システム運用業務
- ⑫資源回収業務

外注する業者は、清田区内の業者もしくは市内の業者を優先した。

仕様書の内容を遵守し、作業の際は、必ず館長もしくは職員が立ち会い確認した。

喫茶業務は、当団体が食品衛生管理者を置き運営管理を行い、地域住民や障がい者施設が日替わりで営業した。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容		
第1回 6月29日 18時30分～ 19時50分	①令和4年度11～3月の貸室別利用状況及び収入等の報告 ②令和5年度4.5月の貸室別利用状況及び収入等の報告 ③令和4年度11～3月の事業報告 ④令和5年度4～5月の事業報告 ⑤令和5年度今後の事業予定 ⑥利用者アンケート結果について	運営協議会は、例年通り2回開催した。 意見交換では、他区の施設に比べて、いろいろな事業を積極的に実施しており、満足度も高く、地域の核になっているというご意見や、幅広い年齢層に向けた事業を実施し、そこからつながりが生まれて理想的な循環が生まれている。地域のために頑張っているという声を頂いた。この評価に甘んじることなく、見直すところは見直し、更に地域のための運営を心掛けたい。	
第2回 11月29日 18時30分～ 20時	①令和5年6月～10月の貸室別利用状況及び収入等の報告 ②令和5年6月～10月の講座・交流事業・憩の場づくり事業等の報告 ③今年度の事業計画について		
<協議会メンバー> ・未来委員会 委員長 ・里塚・美しが丘地区福祉のまち推進センター 代表 ・里美ふれあいクラブ 代表 ・里美少年消防クラブ、さとづか幼稚園 理事長 ・三世代サロンつながる 代表 ・里塚・美しが丘地区町内会連合会 会長 ・札幌市清田区市民部地域振興課 ・里塚・美しが丘まちづくりセンター ・里塚・美しが丘地区センター指定管理者 （労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団）			
▼ 財務(資金管理、現金の適正管理) ▼指定管理費については指定管理者である労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団本部が受取り、各現場(地区センター)は、資金依頼により、必要経費の送金を受けて運営している。 ▼本部は公認会計士による外部会計監査を導入している。 ▼現金の取扱いについては、現金取扱規定を整備しており厳正に行っている。 ▼利用料金は事務職員全員で慎重に取り扱った。(日勤、夜勤) ▼自主事業は別会計で厳正に管理した。 ▼日勤から夜勤、夜勤から翌日の日勤へ、その日に発生した料金等に関する引継は確実に言い、2重3重にチェックし、正確に処理するように心掛けた。 ▼現金の管理は毎日複数名で実施し、週に一度のペースで館長・経理担当でチェック。最終的には月末・半期ごと・年度末にも確認した。 ▼利用料金収入・講座の受講料収入がある場合は、必ず領収書を発行した。また、出来る限り翌日に銀行に入金するようにし、事務所には、必要な現金以外は現場に置かないように心掛けた。		労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団が指定管理業務を行っている札幌市内のコミュニティ施設で共通の経理処理方法を採用、帳票類も使いやすいものに統一しており、スムーズに処理を行っている。 また、月に1回、経理担当者が本部に集まり、各現場の経理月報をチェックしている。 事故防止の為、極力銀行引落としにしている。	

	<p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>▼利用者からの要望・苦情を受ける体制として、受付カウンターに投書用紙『利用者の声』を置いている。 バスの便数が減り、平岡公園や里塚緑から来るのが不便になったという声や、駐車場の混雑状況予定表があれば助かるという声があった。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼日常業務については、毎日、日報を作成、日勤担当者及び清掃担当者で、朝礼時に情報等の共有を図った。また、夕方は、夜勤担当者の出勤に合わせて、日勤担当者及び夜勤担当者で引継ぎを確実に実施し、情報の共有を日々実施した。</p> <p>▼今年度も、年度末に利用者アンケートを実施した。その結果は、スタッフ全員で共有した。また、全項目を掲載している評価シートは、過去3年間分を館内に設置し、公開している。</p> <p>▼講座開催の際にはアンケートを必ず実施し、その中で参加者の満足度・理解度・要望・意見等を聞き、講師と共有、次の事業の参考とした。</p> <p>▼札幌市に対する、報告等の提出は定められた形を遵守し、速やかに実施することを心掛けた。</p>	<p>実地検査については適切に対応し、指摘事項については、速やかに改善した。</p>									
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <p>▼施設で働く職員は、事務職員も清掃職員も同一時給とし、最低賃金を4月より1000円とし、勤務年数3年以上の職員は経験手当として時給に15円を加算した。</p> <p>▼施設で働く職員に時間外労働又は休日労働をさせる場合は、書面による労使協定(36協定)により必要な定めをし、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼職員全員が労災保険に加入し、条件を満たす者は雇用保険にも加入した。</p> <p>▼職員の勤務形態や、家族状況等に応じて厚生年金や健康保険に適切に加入した。また必要に応じて適切に届出等を行った。</p> <p>▼雇い入れ時に、健康診断を実施した。</p> <p>▼120時間以上勤務する職員は、全員1年に1回、定期健康診断を実施した。また、短時間勤務の職員にも健康診断の受診を積極的に勧め費用を助成した。また、インフルエンザの予防接種も、希望する職員全員に行った。</p> <p>▼労働基準監督署からの行政指導を受けなかった。</p> <p>▼多様な働き方・生き方の選択を可能にするためワークライフバランスの取組を推進した。</p>	<p>就業規則の見直しや、時給改定に伴う報酬等支給規程の変更の際には、速やかに労働基準監督署に届けた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">法令遵守、雇用環境の維持向上に取り組んでいる。仕様書に定めたとおり適切に実施されている</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	法令遵守、雇用環境の維持向上に取り組んでいる。仕様書に定めたとおり適切に実施されている			
A	B	C	D								
法令遵守、雇用環境の維持向上に取り組んでいる。仕様書に定めたとおり適切に実施されている											

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D
	<p>▼利用者の安全確保のため、年度末まで引続き、コロナウィルス感染予防のための消毒用品などを各所に配置した。また、各種事業を開催の際は、更に感染対策に気を付け、その都度適切な対策を講じた。</p> <p>また、職員が施設内をこまめにチェックしてまわり、環境整備を行った。施設外周についても、清掃スタッフや夜間スタッフが同様に見回りを実施した。</p> <p>▼毎週開催している子育てサロンでは、コロナが完全に消滅したわけではないため、感染対策に気を付けながら開催した。</p> <p>また、真冬に暴風雪警報が発令された日は、利用者に対応するボランティアの安全のため、開催を中止した。</p> <p>▼拾得物取扱いについては、金銭はその日のうちに交番に届け、利用者の忘れ物等については台帳で管理し一定期間保管、落とし主が現れた時に間違いのないように対応するなど、サービスの向上に努めた。</p> <p>▼連絡体制は、日常業務遂行上必要な連絡簿(外注委託業者等)を作成し、適宜迅速な連絡が取れる体制を敷いている。またスタッフ間での連絡体制(緊急連絡網)も確立している。</p> <p>▼損害賠償保険は、仕様に適合したものに、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団として札幌の全施設が 加入している。</p>		<p>令和5年度は、利用者の安全にかかわるような事案はなかった。</p> <p>利用者の安全に配慮しながら、施設の維持管理やサービス向上に努めていると評価できる。</p>

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

▼前述の12件の業務委託に関しては外注委託している。

▼日常の備品管理・館内清掃・駐車場管理・建物周囲の管理は職員が担当した。

▼今年度も、定期清掃の一部(全館床清掃)を障がい者の就労体験の場とし、B型の事業所へ業務を委託した。

▼経年劣化による、自動ドアのセンサー不良や、トイレの部品交換、コロナで何年も使用を中止していた冷水器の修繕などを業者に依頼して実施した。
また、電気スイッチなどの軽微な不具合は、電気工事士の資格を持つ職員が対応した。

▼毎年、点検をしても必ず不具合が起きて寒いと言われる貸室の暖房がまったく使用できなくなり、大規模修繕が入るまで、数週間暖房が使えず、ポータブルのストーブで対応した。

▼駐車場での事故は、玄関の支柱にぶつかる事故が1件発生したが、けがなどはなく、柱に広範囲な擦り傷が残ったため直してもらった。

▼駐車場が混んできた時には、職員が誘導を行い、事故のないよう配慮した。
特に、イベント開催時は、複数名で対応にあたった。

▼1階のコミュニティカフェさとみんは、日替わりで厨房に入るスタッフが変わるため、厨房設備・料理・スタッフ自身の衛生面を徹底し、食中毒などの事故を出さないよう注意した。

▼緑地管理のうち、芝地の草刈りは担当の職員が随時行い、樹木の剪定は業者に依頼した。
また、周辺の街路樹ますと前庭に花を植え、地域の方と水やりなどを協力して行い、環境美化に努めた。

▽ 防災

▼館内に入っている施設の職員と一緒に、自衛の消防訓練を実施し、緊急時の館内放送や消火器等の使い方を確認した。

▼夏休みに近隣の2つの児童館の児童を対象に、消防署・豊平警察署・まちづくりセンター・里美町連と共催で防災の体験会を実施し、地域の子供達の防災意識を高めた。

系統の違う多目的室の暖房のみ使えたので、ドアや窓を開けて暖気をラウンジへ流し寒さを凌いだ。

カフェに入る団体には、毎日日報を付けてもらい管理した。また、職員も随時立入り衛生面に気を配った。

(4)事業の計画・実施業務

▽ 学習機会の提供業務としての区民講座の開催

No.	開催した講座名	実施回数	目標人数	参加人数	達成率
1	さとみ医療講座「脳卒中の予防について」	1	8	18	225%
2	サークル応援「やさしい太極拳講座」	4	16	32	200%
3	地域住民企画「清田の地形から学ぶ物知り講座」	1	8	16	200%
4	「高齢者のためのいきいき健康講座」	5	80	130	163%
5	地域住民企画「春のガーデニング講座」	2	8	12	150%
6	「みんなの茶の間オープンカレッジ」	12	96	140	146%
7	「親子でクッキング」	2	29	36	124%
8	「手打ち蕎麦講座」	2	16	20	125%
9	「速く走るコツ講座」	2	32	38	119%
10	地域住民企画「おうちで出来る美味しいスープカレー講座」	2	26	30	115%
11	「認知症サポーター養成講座」	1	8	9	113%
12	地域住民企画「天文講座」	4	48	50	104%
13	「夏休み子ども工作講座」	1	8	8	100%
14	「簡単！包丁研ぎ講座」	2	8	8	100%
15	「里美地区センお仕事体験」	1	5	5	100%
16	地域住民企画「夏休み親子理科実験教室」	1	24	16	67%
開催した講座の合計		43	420	568	135%

地元の病院の医師を迎えて実施する医療講座を久し振りに開催したところ受講者が多かった。次年度も医師から話を聞く医療講座を開催する予定。

初企画として、あしりべつ郷土館のスタッフを講師に迎え、清田の地形から見た災害の話などを聞く講座を開催した。関心度が高く、終了後も質問が続いた。

A B C D
趣向を凝らした様々な事業を企画・実施している他、ほとんどの事業で目標を大きく上回っている点が評価できる。

▽ 地域住民の交流等を目的とした事業に関する業務

No.	開催した事業名	実施回数	目標人数	参加人数	達成率
1	「夏のつながるフェスタ」	1	320	1,080	338%
2	さとみ食堂特別企画「カレー・牛丼をゴチします！」	3	96	252	263%
3	「冬のつながるフェスタ」	1	320	679	212%
4	「ミニミニふれあい芸術祭」	1	320	571	178%
5	月面観察会「ヘルセウス流星群を見よう」	1	24	38	158%
6	「天体観察会」	1	24	38	158%
7	「スノーキャンドルフェスタ」	2	32	50	156%
8	「ハンドベル&トーンチャイムコンサート」	1	48	74	154%
9	「トーンチャイムコンサート」	1	32	49	153%
10	「みんなのSDG'sフェスタ」	1	12	17	142%
11	コミュニティカフェ「さとみん」	128	2,730	3,341	122%
12	「夏休み子ども防災防犯教室」	1	32	39	122%
13	「土田英順チャリティー・チェロコンサート」	1	48	58	121%
14	「みんなおいでよ！さとみ食堂」	12	288	335	116%
15	「さとみ歌声喫茶」	3	72	62	86%
開催した事業の合計		158	4,398	6,683	152%

寄贈のレトルトカレーや、牛丼100食の提供があり、さとみ食堂の特別企画として、3回無料配布を実施した。

▽ 施設開放事業(無料)に関する業務業務

地域の憩いの場づくり施設活用事業(無料)

No.	種目	実施回数	目標者数	利用者数	達成率
1	ふれあい開放	34	340	47	14%
2	卓球開放	42	336	452	135%
3	ミニバレー開放	50	600	522	87%
4	囲碁開放	35	280	136	49%
5	学習開放	35	—	175	—
6	子育てサロン「カンガルーポッケ」	37	740	892	121%
合計		233	2,296	2,224	97%

日曜開催の「ふれあい開放」は貸室利用で中止になることが多く、振替え先の土曜も貸室が入るため1年を通して開催が少なかった。

▽ 図書業務(図書カウンター業務)

・利用状況

	令和4年度実績	令和5年度実績	対前年(率)
開催日数	297	298	100%
新規登録数	2	7	350%
利用者数	4,404	4,197	95%
貸出数	6,153	5,650	92%
返却数	7,785	7,492	96%
レファレンス数	1	0	—

・利用促進事業

▼中央図書館からの宣材物の配架は、利用者の目に留まりやすいように図書カウンターの横に設置した。

▼毎月発行の「地区センターニュース」に図書カウンターからのお知らせを掲載、ホームページでも紹介し利用を促した。

(5)施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

		R5年度計画	R5年度実績	差(決算-計画)
多目的室	件数(件)	854	812	-42
	人数(人)	16,603	17,336	733
	稼働率(%)	73.8%	71.9%	-1.9%
集会室1	件数(件)	636	667	31
	人数(人)	3,238	3,523	285
	稼働率(%)	60.6%	60.3%	-0.3%
集会室2	件数(件)	790	835	45
	人数(人)	5,946	6,953	1,007
	稼働率(%)	73.5%	76.8%	3.3%
実習室1	件数(件)	523	655	132
	人数(人)	3,841	4,501	660
	稼働率(%)	49.6%	62.2%	12.6%

コロナの期間に、調理を伴う活動を中止していたサークルが次々と活動を再開したことから、実習室の1と2の利用率が大幅に回復し、全体としての稼働率を引き上げた。

A	B	C	D
利用促進の取り組みを積極的に行い、総じて計画を上回る実績を達成しており評価できる。			

実習室2	件数(件)	461	622	161
	人数(人)	2,868	3,982	1,114
	稼働率(%)	42.4%	58.0%	15.6%
視聴覚室	件数(件)	473	492	19
	人数(人)	6,945	6,902	-43
	稼働率(%)	46.5%	47.0%	0.5%
※参考 屋上 多目的 広場	件数(件)	0	0	0
	人数(人)	0	0	0
	稼働率(%)	0	0	0%
合計	件数(件)	3,737	4,083	346
	人数(人)	39,441	43,197	3,756
	稼働率(%)	57.7%	62.7%	5.0%

▽ 不承認 0件、 取消し 0件、 減免 0件、 還付1件(暴風雪のため)

▽ 利用促進の取組

▼貸室の定期利用促進のため「サークル応援講座」を企画し、太極拳のサークルが立ち上がった。

▼利用条件緩和措置の周知(時間貸し・営利・飲酒等)を今年度も行った。

▼営利利用は、ひと月前からの予約となるが、借り方の提案や比較的空いている時間の紹介等で新規の利用が増えた。

貸室の抽選で落選したサークルに対し、キャンセルが出た場合は速やかにお知らせし、利用できるように配慮した。

(6)付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	<p>▼ウェブアクセシビリティについては、令和3年度にJISの適合試験を受け、レベルAおよびAA 準拠をめざして全ページを改善した。取組確認・評価表については、ホームページ上に公開している。</p> <p>▼ホームページを、誰もが使いやすくわかりやすいように、読み上げ機能を搭載し、更新作業のたびに読み上げ原稿の入力作業を行った。</p> <p>▼ブログの配信をまめに行い、タイムリーなお知らせはFacebookやTwitterで発信。LINEでは、月に1回の情報発信と、ホームページへのリンクのメニューを新たに設置した。</p> <p>▼インターネットシステムによる貸室予約を平成20年6月より継続して実施した。</p> <p>▼子供が対象の事業を開催の時には、近隣の小学校へチラシを配架して参加を促した。</p> <p>▼毎月発行の地区センターニュースや「広報さっぽろ」への掲載の他、「ふりっぱー」「ひろまある清田」など様々な媒体に情報掲載を積極的に依頼し、広範囲への広報活動に努めた。</p> <p>▼館内に入っているまちづくりセンターや里美町連、福祉のまち推進センターとは常に情報を共有し、共催で事業を行ったり、それぞれの広報誌で情報を掲載するなど連携を図った。</p>		<p>HPは細かく更新されており、地区センターの情報がわかりやすく整理されている。</p> <p>また、HP以外の情報配信においても、毎月の地区センターニュースの発行やSNSの活用など様々な手法を用いて、幅広い年代を対象に情報を発信する工夫を行っており、サービスの向上につながったと認められる。</p>
	<p>▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)</p>		

2 自主事業その他

▽ 自主事業

▼平成23年4月から札幌市と委託契約を結び、古紙回収ボックスの管理を引き続き行った。

・古紙回収実績

・収入 4～3月

市奨励金 12,300円（前年度より2,400円増）

事業収入 7,810円（前年度より1,750円増）

・支出 29,800円（貸出し用プロジェクター購入）

昨年度より、古紙の持込みが微増しており、今年度もその傾向が続いた。

A B C D
市内企業の活用や福祉施設への配慮は適切になされており評価できる。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

①市内企業等の活用

業務委託先は、区内の業者または、市内の業者に委託した。

②福祉施設への配慮

▼今年度も、定期清掃3回実施のうち1回をB型の施設と業務委託契約を結び、障がい者の就労体験の場として支援・協力した。

▼地域住民や、ボランティア団体と一緒に、就労継続支援B型事業所の利用者さんも、カフェでランチ提供を継続している。また、交流事業の時には、福祉小物の販売などにも出店してもらっている。

▼1階と2階にそれぞれ飲み物の自動販売機を設置し、利用者が購入することによって市内の福祉団体の収入になっている。

地域の皆さんが一緒になって、障害のあるなしにかかわらず、自分の居場所として活躍し、交流する場となっている。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	実施期間：令和6年1月20日～2月29日 来館者を対象に手渡しで配布して実施 (回収部数：289部)																																					
結果概要	<p>・総合的な満足度は目標80%に対し90%だった。</p> <p>・接客態度に関する満足度は目標80%に対し90%だった 全質問と結果は下記の通り。</p> <p>Q1 年代について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>回答</th><th>構成比</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td><td>18</td><td>6%</td></tr> <tr> <td>中学生</td><td>24</td><td>8%</td></tr> <tr> <td>高校生</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr> <td>学生(大学・短大・専門学校)</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>回答</th><th>構成比</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>～20代</td><td>1</td><td>0%</td></tr> <tr> <td>30～40代</td><td>40</td><td>14%</td></tr> <tr> <td>50～60代</td><td>83</td><td>29%</td></tr> <tr> <td>70代以上</td><td>121</td><td>42%</td></tr> <tr> <td>無回答</td><td>2</td><td>1%</td></tr> <tr> <td></td><td>289</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table>			回答	構成比	小学生	18	6%	中学生	24	8%	高校生	0	0%	学生(大学・短大・専門学校)	0	0%		回答	構成比	～20代	1	0%	30～40代	40	14%	50～60代	83	29%	70代以上	121	42%	無回答	2	1%		289	100%
	回答	構成比																																				
小学生	18	6%																																				
中学生	24	8%																																				
高校生	0	0%																																				
学生(大学・短大・専門学校)	0	0%																																				
	回答	構成比																																				
～20代	1	0%																																				
30～40代	40	14%																																				
50～60代	83	29%																																				
70代以上	121	42%																																				
無回答	2	1%																																				
	289	100%																																				

今年度も、ジェンダーに関する多様性に配慮し、性別を聞く設問は掲載しなかった。

A B C D
各項目において高い評価を得ており、要求水準を適切に満たしている。

【ご利用 貸室について】

Q2 ご利用目的は何ですか？ (複数回答)

	回答数	構成比
サークル利用	192	65%
会議・研修・勉強会など	41	14%
講座・交流事業に参加	26	9%
無料開放	25	8%
フリースペース利用	3	1%
朝のラジオ体操会参加	0	0%
カフェ利用	9	3%
無回答	0	0%
	296	100%

Q3 ご利用頻度は？

	回答数	構成比
週1回以上	105	36%
月2～3回	120	42%
月に1回	35	12%
その他	27	9%
無回答	2	1%
	289	100%

Q4 主な来館手段は？ (複数回答あり)

	回答数	構成比
自家用車	224	74%
公共交通機関	22	7%
自転車	11	4%
徒歩	39	13%
徒歩	5	2%
無回答	3	1%
	304	100%

施設の利用に車は必須のものとなり、ほぼひとり1台で来るため駐車場が手狭になっている。
大きなイベントと同時刻の利用は、駐車場を使用しない場合のみ予約を受付けることもある。

Q5 また貸室をご利用いただけますか？

	回答数	構成比
ぜひ利用したい	177	61%
利用したい	63	22%
どちらかといえば利用したい	12	4%
どちらでもない	17	6%
利用したくない	0	0%
無回答	20	7%
	289	100%

【区民講座 交流事業について】

Q6 地区センターで主催する「区民講座」「地域交流事業」を実施していることをご存じでしたか？

	回答数	構成比
知っている	170	59%
知らない	92	32%
参加したことがある	24	8%
無回答	3	1%
	289	100%

Q7 Q6で『参加したことがある』に○を付けた方は、参加された「区民講座」「地域交流事業」の内容はいかがでしたか？

	回答数	構成比
満足	11	46%
やや満足	8	33%
普通	2	8%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
無回答	3	13%
	24	100%

Q8 Q6で『知っている』『参加したことがある』に○を付けた方は、何でお知りになりましたか？
(複数回答可)

	回答数	構成比
広報さっぽろ	75	31%
館内チラシ	65	27%
地区センターニュース	26	11%
町内会の回覧	38	16%
ホームページ	4	2%
地域メディア	12	5%
地区センターSNS	6	2%
その他	18	7%
	244	100%

【図書カウンターについて】

Q9 図書カウンターや図書検索機の利用回数は？

	回答数	構成比
1回のみ	18	6%
月1回程度	8	3%
年に数回程度	15	5%
利用したことはない	248	86%
	289	100%

Q10 また図書カウンターをご利用いただけます？

	回答数	構成比
ぜひ利用したい	28	10%
利用したい	35	12%
どちらかといえば利用したい	48	17%
どちらでもない	98	34%
利用したくない	7	2%
無回答	73	25%
	289	100%

Q11 当センター内のカフェ「コミカフェさとみん」を知っていますか？

	回答数	構成比
知っている	153	53%
知らない	80	28%
利用した(1回)	15	5%
利用した(2回)	12	4%
無回答	29	10%
	289	100%

Q12 利用されたことがある方は、また利用したいと思いますか？

	回答数	構成比
ぜひ利用したい	28	10%
利用したい	35	12%
どちらかといえば利用したい	48	17%
どちらでもない	98	34%
利用したくない	7	2%
無回答	73	25%
	289	100%

他の区から来る高齢男性や、ご夫婦での利用、グループ利用、サークル終わりの利用など、様々な方が利用されている。

今年度は、食事と共に、提供する音楽演奏の回数も増え、居心地の良い地域の居場所として利用するリピーターも増えてきた。。
カフェを営業していない曜日でも開店できるように、拡大に努めたい。

【清掃・館内の施設・職員について】

Q13 館内全般の清掃状態はいかがでしょう？

	回答数	構成比
良い	192	66%
やや良い	58	20%
普通	12	4%
やや悪い	0	0%
悪い	0	0%
無回答	27	9%
289		100%

利用者に安全に
使って頂くため、特
に朝の清掃では貸
室内やドアノブ、トイ
レなどの除菌・消毒
を徹底した。

Q14 館内全般の備品や設備等の管理はいかがでしょう？

	回答数	構成比
良い	170	59%
やや良い	69	24%
普通	17	6%
やや悪い	1	0%
悪い	1	0%
無回答	31	11%
289		100%

壊れた備品の買い
替えや、同時利用
が多い備品の追加
購入などを随時
行った。
また、長年、毎年修
理をしていた暖房
機の大規模修理が
入り、寒さが若干軽
減された。

【地区センターの職員について】

Q15 職員の言葉づかいや態度・受付業務はいかがでしょう？

	回答数	構成比
良い	193	67%
やや良い	54	19%
普通	13	4%
やや悪い	1	0%
悪い	0	0%
無回答	28	10%
289		100%

9割近い利用者に
高評価を頂いた。

【総合評価】

Q16 また里塚・美しが丘地区センターを利用したい
と思いますか？

	回答数	構成比
ぜひ利用したい	165	57%
利用したい	78	27%
どちらかといえば利用したい	9	3%
どちらでもない	7	2%
利用したくない	0	0%
無回答	30	10%
	289	100%

Q17 里塚・美しが丘地区センター全体の評価(満足
度)はいかがでしたか？

	回答数	構成比
良い	176	61%
やや良い	78	27%
普通	7	3%
やや悪い	1	0%
悪い	0	0%
無回答	27	9%
	289	100%

高い評価を頂いた
ことに感謝し、今後
も地域のコミュニ
ティーセンターとし
ての役割を果たし
ていきたい。

利用者
からの
意見・要
望とそ
の対応

【意見】

部屋が寒い。快適な環境でレッスンを受けたい。

【対応】

大規模修理で若干部屋の環境は改善したが、寒い場合
は、ポータブルの暖房機やひざ掛けを利用してもらった。

【意見】

多目的室の床が滑る

【対応】

利用前に床清掃に入る他、モップの貸出も行った。

【意見】

自転車置き場の自転車が風で倒れる

【対応】

固定する方法を検討している。

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算-計画)
収入	29,880	31,973	2,093
指定管理業務収入	29,859	31,953	2,094
指定管理費	23,949	23,353	▲ 596
利用料金	5,200	5,672	472
その他	710	2,928	2,218
自主事業収入	21	20	▲ 1
支出	29,669	31,852	2,183
指定管理業務支出	29,669	31,852	2,183
自主事業支出	0	0	0
収入-支出	211	121	▲ 90
自主事業による利益還元			
利益還元	30	20	▲ 10
法人税等	80	80	0
純利益	101	21	▲ 80

【参考】	R5年度決算	内容
指定管理業務による利益還元	453	下記のとおり

▽ 説明

◆利用料金収入は、コロナ前の状況に少しずつ戻ってきた令和4年度に比べて更に回復し、当初計画よりも472千円増で着地した。

◆その他収入の中で決算欄には、水熱光費の高騰に関する市の補填額を含めた。前年度はここにキャンセル料等の補填もあり3,850千円だったが、今年度は、2,928千円だった。

◆自主事業収入は、前年度15,960円から4,150円増の20,110円に増えた。貸室利用の際に貸出し希望が多い、HDMI用のプロジェクターを購入した。

◆指定管理業務からの利益還元453千円については、今年度は特に、開館15周年を記念して行った各種コンサート等の経費に充当した。単年度としては、経年劣化による機器の故障が増え、自動ドアやトイレタンク、給湯器等を修理した他、耐用期間があるためAED本体も買替えた。

A	B	C	D
利用料金収入が計画を上回るなど適正に運営されている。 また例年を上回る利益還元を実施している点も評価できる。			

<確認項目> ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持 ▼ 当団体は全国に拠点を持つ協同経営の組織であり、単独の事業所・現場の経営だけでなく、相互に安定経営を維持するために、常に連携し業務の改善を図っている。		適 不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 使用承認書・団体登録書・受講申込書・無料開放参加登録書等の個人情報のファイル等はロッカーに施錠して保管した。 ▼ 情報公開については労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団が定める規定に則って、要求が有れば対応出来る体制にある。 ▼ 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。		適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>◆今年度は、コロナの感染が落ち着いてきたこともあり、調理などの貸室利用が復活し、事業としての食の講座やイベントも消毒や換気に気を付けながら、たくさん開催して地域住民の交流を積極的に図った。</p> <p>◆1・2階のフリースペースも、消毒液は設置したが、間引きして間隔をあけていた座席も戻して着席してもらい、自習をしに来る学生がほぼ毎日利用した。</p> <p>◆毎月1回開催している「さとみ食堂」は、こども食堂ネットワークやJA、地元の団体や個人の方からの寄贈品があり、高校生以下100円、大人300円で提供しているが、12回開催のうち3回を無料で開催した。メニューは大量に頂いたレトルトカレーで作ったカレーランチの他、100食頂いた牛丼も副菜を付けて配った。子供だけでなく、高齢のご夫婦や、三世代のご家族、若いお母さんとお子さん、自習に来た学生など、様々な方に利用して頂いた。</p> <p>◆「食」の事業として実施している1階の「コミュニティ・カフェさとみん」は、毎週金曜日に就労継続支援B型事業所の「みのりて」が入り、利用者さんにとって、貴重な接客や調理の体験の場となっている。他の曜日は、3つのボランティア団体等が入り、利用者にとっては食べるだけではなく、会話や音楽を楽しむ交流の場になっている。また、調理をする側にとっても主体者として活躍する場となっている。</p> <p>◆今年度は、開館15周年の年にあたり、イベントなどもいつもとは違った内容で企画し、特にファイナルイベントでは地元の様々な団体と連携、協力を頂き、地区センターのテーマである「つながる」を実践、今まで築いてきた地域とのつながりを改めて実感した。</p>	<p>◆地域の方が主体的に活躍できるような場面を事業だけでなく日常の場でも積極的に創造する。また、現在地域の皆さんが活躍しているコミカフェさとみんを、更に新しい団体や施設、地域の方に担ってもらい、地域に開かれた居場所として育て、活躍の場としてもらう。</p> <p>◆実食に戻った「さとみ食堂」を、食で困っている家庭に広げる方法を探し、各団体と連携し実践する。</p> <p>◆地域住民のために地区センターの機能を十分に活用した運営を展開し、その活動を地区センターニュースや、ホームページ・ブログ・フェイスブック・ツイッター・LINEをフル活用して周知徹底を図り、新たな「つながり」を広げる。</p>
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>設置目的に見合った適切な運営がされている。地域住民との連携、利用者のニーズに合わせた講座の実施や、開放事業を積極的に行っており、地区センターのテーマである「つながる」を具体化できているといえる。</p> <p>また、趣向を凝らした地域交流行事を開催し、多くの参加者を集めている点は、高く評価できる。</p>	<p>今後も利用者や地元住民と積極的に関わりを持つことで、信頼される地区センターとしての地位を築いていただきたい。</p>